栃木県農業大学校 令和５年度学校評価シート

目指す方向　　魅力ある農大づくり　～農大の価値を高め、とちぎの農業を担う人材を育成する！～

重点目標	現状と課題	評価項目 評価指標	具体的方策	取組項目 学部・塾	取組項目 内　　容	経過・達成実績	達成度	次年度の課題と改善方向	関係者評価委員会からのコメント
２　教育内容の充実	**（現状）** ○Ｒ４の授業評価アンケートで、内容が理解できている･概ね理解できているの回答が75.4%、とちぎ農業未来塾講義の満足度は84.8%であった。 ○農業技術検定３級合格率は86.7%、２級合格率は37.2%であった。 ○非農家や普通高校からの学生が増えており、よりきめ細やかな講義・実習が求められ、対応に苦慮している。 ○ICTやドローン等を活用した新技術、GAPの取組が現場で拡大しつつある。 　Ｒ４年度のスマート農業に接した学生の割合は100%。 ○高機能ハウス・ドリーム牛舎など最新型施設の整備が進む一方、施設、設備、備品の多くが老朽化しており、更新や修繕が進んでいない。 ○新型コロナウイルス感染症に対応し、Ｒ２年度にYouTube配信による授業を行ったが、同時双方向型など教育効果を向上させるためのオンライン授業の拡充が求められている。 ○Ｒ３年度創設の「いちご学科」について、カリキュラムを着実に実施しつつ、問題点等の検証を並行して行っていく必要がある。	分かりやすい授業・講義（アンケート結果） ・農業生産学部 大体分かる 80% ・未来塾 満足度 80%	(1)教育スキルの向上	生産学部 経営学部 未来塾	○教員研修会の開催	・４月､新任教職員に対し教育計画書､シラバスを説明。 ・５月､農業電子図書館の利用説明会を実施。 ・５月､12月､２月スクールカウンセリング等研修を実施。 ・６月､Google for Education操作研修会実施。 ・みどりの食料システム戦略Web勉強会(毎月)等への参加及び資料の共有化。 ・スマート農業研修への参加､情報の共有化。	分かりやすい授業・講義（アンケート結果） ・農業生産学部 大体分かる 92.6% ・未来塾 満足度80%以上の修了者 100%	・教え方に不安がある職員を対象に、授業見学や模擬授業の実施及び意見交換の場を設ける。 ・学生の特性理解、対応についての研修会を実施する。	
					○指導者研修会への参加	・指導力強化発展研修（農水省､運営：マイファーム）へ新任職員１名が対面研修に参加、３名がアーカイブ研修に参加。		・研修参加者による研修内容の職員への伝達を図るとともに、引き続き各種研修会へ積極的な参加を促進する。	
					○授業評価の実施	・７月～８月､１月～２月に授業に関するアンケート調査を実施、結果は概ね良好。		・アンケート結果から授業の改善方法を提案する。	
					○学部と研修担当間の栽培体系の統一	・いちご実習チームを編成し、栽培計画、施設利用計画等を調整した。機械操作等について農業教育指導員等と連携し実施した。 ・ほ場検討会により、情報の共有と技術の研鑽を図った。		・定期的な主要作業前の打合せを行う。	
			(2)生産技術、経営能力の向上		○基本技術の徹底指導　・実践教育の実施	・学科専攻ごとに専攻実習で栽培、飼養管理技術及び機械操作技術を習得。		引き続き施設･機械を活用し基本技術の向上を目指す。	

目指す方向　　魅力ある農大づくり　～農大の価値を高め、とちぎの農業を担う人材を育成する！～

重点目標	現状と課題	評価項目 評価指標	具体的方策	取組項目 学部・塾	内　　容		経過・達成実績	達成度	次年度の課題と改善方向	関係者評価委員会からのコメント
	（課題） ●卒業後に円滑な就農ができるよう、基本知識・技術の習得はもちろん、先進技術の習得、資格取得等が必要である。 ●教職員の専門性や指導力の向上が必要である。 ●水田等への土地利用型作物の拡大・みどりの食料システム戦略等の施策に対応した実習が必要である。 ●ICTやロボット技術、ドローン活用等、スマート農業を取り入れた実習が求められている。 ●施設、設備、備品の更新や修繕を着実に実施するため、計画的かつ効果的な予算の確保が必要である。 ●オンライン授業について、様々な場面での活用を念頭に、同時双方向型授業に向けた問題点の検証、模擬授業の実施等、着実な環境整備が必要である。 ●「いちご学科」について、引き続きカリキュラム構成及び内容に関する検証・改善、農業振興事務所や受入先農家等との円滑な連携に取り組む必要がある ●とちぎ農業未来塾では、基本技術に加え、新技術に対応した施設整備及び指導力の強化が必要である。	農業技術検定合格率 ・農業生産学部 ３級　　100% ２級　33%以上			○先進技術の導入	・G.A.P.に係る教育の充実	・８月９日 なしG.G A P更新審査を実施、是正措置も対応し、更新登録となった。 ・米でとちぎＧＡＰ第三者認証継続の対応により、危険箇所の点検・改善を行った。	農業技術検定合格率 ・農業生産学部 ３級　76.9% ２級　7.1% １級　50.0%	・なしのG.GAP、米のとちぎGAPは認証継続を目指す。 ・これらの取り組を活かし授業等でGAPの理解度を高める。 ・G.GAPはVer６に移行するため対応が必要である。	**・農業高校と普通高校の知識差をどうしているのか。 → 学生の個性によって対応は様々、個別の対応になる。**
						・連携協定等による教育研修の充実	５月、クボタ、ヰセキ、ヤンマーと連携し、水稲密苗や疎植等移植作業を実施。 ８月、ヰセキと連携の下、ロボットトラクター等最新型の機種を用いた農業機械整備実習を実施。 ・10月、IFC調理製菓大学校(三友学園）で６次産業化実習を実施。		・引き続き農業機械企業及びIFC調理製菓大学校との連携による実習を実施する。	**・最近のインボイス制度とか、経理・経営・マーケティング等についての指導は？ → 授業に取り入れながらやっている、基礎的なところから行う。 ・最先端の施設に合った教育・進路に活かせているか。**
						・ＩＣＴ技術・新品種等の導入 （拡充または理解促進）	・いちごの定植前炭酸ガス処理装置を９月から使用し、効率的なハダニ防除への理解を図った。		・炭酸ガス処理後、天敵を活用した防除法の実施。 ・気象等観測装置の導入により管理の効率化を図る。	
						・土地利用型園芸技術の習得	・次世代型園芸人材育成施設及びたまねぎ・ねぎの機械化一貫体系を有効に活用し、育苗から定植、ほ場管理、収穫・調整技術を習得。		・引き続き、施設･機械を活用し技術を習得させる。	
					○経営管理能力の習得	・実践的経営管理学習の充実	・先進事例研究など校外学習を実施。 ・経営特別講座で先進的な経営を実践する農業者の講義を実施。		・引き続き校外活動等に取り組んでいく。	
			(3)主権者教育の充実	生産学部	○学生寮生活を通しての教育		・寮生会の活動支援、コロナ5類移行に伴い感染対策を変更、寮防災訓練・寮生会事業を復活実施した。 ・寮教育指導補助員との意見交換による指導内容の改善等を実施。 ・「寮のあり方検討」をすすめ、方針案を作成。		・令和６年度寮運営方法の検討。 ・「寮のあり方検討」内容の具体化。	

目指す方向　　魅力ある農大づくり　～農大の価値を高め、とちぎの農業を担う人材を育成する！～

重点目標	現状と課題	評価項目 評価指標	具体的方策	取組項目 学部・塾	取組項目 内　　容	経過・達成実績	達成度	次年度の課題と改善方向	関係者評価委員会からのコメント
		スマート農業に接する学生の割合 100%			○販売学習機会の充実	・カインズホーム平出店による販売実習は５・７・９・10・12月の５回実施した。	（全国平均 ３級　66.1% ２級　24.1% １級　9.6%）	・実施の可否を適切に判断しながら継続して実施する。	
					○社会生活講座・経営特別講座の充実	・社会生活講座(全８回)及び経営特別講座(全７回)について、前年度の結果を踏まえ各回の内容を検討して実施。		・実施結果を踏まえ次年度の講座テーマを検討する。	
			(4)時代に応じた社会人研修の充実	未来塾	○とちぎ農業未来塾の講義内容・講師等の検討 ・アンケート等により課題を整理し、次年度の内容を検討する。	・次年度を待たずに、後期の授業から内容を充実させたるため、年度当初予定の講師等を一部変更した。 ・Ｒ６年度からの有機農業講義等導入に向け検討を開始した。		・アンケート調査により当年度の課題を整理し、次年度の講義内容や依頼講師を検討する。 ・有機農業研修は参加状況等を踏まえ翌年度以降の内容を検討する。	
			(5)授業・研修のオンライン、デジタル化	生産学部 経営学部 研修科(ﾋﾞｼﾞﾈｽｽｸｰﾙ)	○ＰＣ等を活用したペーパーレス講義の実施	・外部講師等の講義を始め、ペーパーレス講義を導入し始めている。	スマート農業に接する学生の割合 100%	・引き続き、ペーパーレス講義の実施を拡大する。ただし、習得すべきポイントが伝わるようワークシートの活用等の講義方法を工夫する必要がある。	
					○オンラインを活用した講義による授業運営の効率化	・とちぎ農業ビジネススクール及び学生に対する一部講義で、オンライン授業を実施。		・次年度も同様に実施する。	
		デジタル教育を利用する学生の割合 100%	(6)校内環境の整備・リスク管理の徹底	生産学部 経営学部 未来塾	○感染症（新型コロナウイルス等）感染防止対策の徹底	・５月の５類移行に伴い、校内及び学生寮における対策の変更を実施した。	デジタル教育を利用する学生の割合 100%	・感染の再拡大時における適切な対応。	
					○学校施設・設備の維持管理	・校内道路の安全対策について、危険箇所の十字路に一時停止の白線や標識の設置、見えずらい場所の樹木伐採等を行った。 ・農場実習等のトイレの水道切り替え工事等、農場衛生環境の保持を行った。		・引き続き、施設・設備の状況把握を行い、優先度の高いものから予算要求を行うと共に、各種事業の活用の機会を逃さない対応を徹底する	
					○施設・教育現場でのリスク対応点検の継続実施	・前年度のヒヤリハット事例の改善（一時停止）を実施。			
					○環境美化の励行	・日常の清掃、学科・専攻の分担区ごとの清掃等を実施。		・引き続き環境美化に努める。	
					○個人情報の適正管理 ・情報漏洩防止のため、媒体や資料の持ち出し厳禁等適正管理を徹底する。	・学生名簿・成績データに開封時のパスワード設定。 ・学籍簿・入試出願書類は金庫に保管。 ・不要な個人情報書類は必ずシュレッダーで廃棄。		・引き続き適正管理に努める。	